

平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月8日

上場会社名 オリコン株式会社
 コード番号 4800 URL <http://www.oricon.jp>

上場取引所 大

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小池 恒
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員企業広報部長 (氏名) 日高輝明

TEL 03-3405-5252

四半期報告書提出予定日 平成24年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	4,869	△4.5	733	△17.5	671	△19.0	357	△35.9
23年3月期第3四半期	5,096	15.7	889	72.9	829	67.0	558	171.3

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 381百万円 (△33.7%) 23年3月期第3四半期 575百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	2,292.47	2,288.69
23年3月期第3四半期	3,569.08	3,539.56

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	4,805	2,150	37.5
23年3月期	5,060	2,169	36.5

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 1,804百万円 23年3月期 1,847百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	800.00	800.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	800.00	800.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,060	4.0	1,250	2.3	1,160	1.2	660	△17.1	4,178.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	157,950 株	23年3月期	157,950 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	8,200 株	23年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	156,135 株	23年3月期3Q	156,470 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載している業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報.....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報.....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報.....	4
2. サマリー情報（その他）に関する情報.....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動.....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用.....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示.....	5
3. 四半期連結財務諸表.....	6
(1) 四半期連結貸借対照表.....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	8
(3) 継続企業の前提に関する注記.....	11
(4) セグメント情報等.....	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記.....	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日～平成23年12月31日)におけるわが国の経済は、東日本大震災からの復興に向けた動きが出始め、企業の生産活動や個人消費に回復の兆しが見られたものの、欧州の金融不安やそれに伴う急激な円高の進行等によって、先行き不透明な状況で推移しました。

一方、情報通信の分野においては、通信キャリア各社よりスマートフォンの新製品が次々と販売開始になり、スマートフォン市場が急速に拡大しました。株式会社MM総研の調べでは、平成23年度上期(平成23年4月～9月)のスマートフォンの出荷台数は、前年同期比4.5倍の1,004万台となり、携帯電話端末全体の総出荷台数の49.5%を占めています。平成23年度下期(平成23年10月～)においても、通信キャリア各社から、スマートフォンの冬春モデルの新製品が、順次、発売されました。

このような状況下、当第3四半期連結累計期間において当社グループでは、スマートフォンへの対応を推進し、積極的に先行投資を行いました。特に、Android[®]携帯電話向けの音楽配信サービスについては、配信楽曲の充実に注力し、フィーチャーフォン向けの着うたフル[®]とほぼ同水準の楽曲ラインナップとなりました。また、対応端末を増やすとともに、ユーザーの利便性と満足度を高めるため、デザイン(ユーザーインターフェイス)を一新する大幅なリニューアルを平成23年11月に行いました。平成23年12月度のAndroid携帯電話向け音楽配信での売上高は、フィーチャーフォン向け着うたフルの売上高の8%になりました。一方、「オリコンアプリランキング」については、様々なカテゴリーをカバーして展開していますが、ソーシャルゲーム市場が活況になってきていることを睨み、スマートフォン向けのソーシャルゲームに特化していくことも視野に入れ、ユーザー満足度に基づく「オリコンソーシャルゲームランキング」の開発に着手し、平成24年2月よりランキングの発表を開始しました。

今後、スマートフォン市場がさらに成長していくにつれ、インターネットへの接触は増大し、それに伴ってGoogle/Yahoo!の検索サービスの利用が拡大していくことが見込まれます。当社グループで平成18年9月より展開している「顧客満足度(CS)ランキング連動型広告」は、安定的に収益を伸ばしていますが、その要因の一つは、ジャンルに関わるワードについて、Google/Yahoo!の検索結果の上位表示を獲得しているため、検索結果から流入するユーザーが着実に増えているということです。例えば、「自動車保険」での検索結果では、第3位に表示されており、自動車保険のCSランキング掲載ページへの全流入数のうち、58.5%が検索結果から誘導され、さらに、CSランキング掲載ページからランクインしている各企業のサイトに月間で53,000回誘導する実績を出しています(平成23年12月度)。検索結果から誘導されてくるユーザーは、目的意識が高く、消費行動に移りやすい特性があります。検索結果の上位表示を獲得した上で、このような質の高いユーザーを検索結果からCSランキング(ソーシャルゲームランキングを含む)に誘導し、ユーザー一人当たりの広告売上額を最大化することを、当社グループの成長戦略の一つに位置付けました。ユーザー一人当たりの広告売上額を伸ばすため、収益の機会を拡充すべく、これまでのクリック課金以外に「一括資料請求」「一括見積り」の機能を追加し、ハイブリッド型にするためのシステム開発に着手しました。その成果の第一弾として、平成24年2月2日より、「大学受験塾・予備校」のジャンルで「一括資料請求」のサービスを開始しました。

<ご参考>平成24年2月2日現在の検索結果:「塾 大学受験」～第2位、「大学受験 予備校」～第3位

当第3四半期連結累計期間の報告セグメントごとの状況は、以下の通りであります。

①WEB事業

東日本大震災によって、平成23年4月、5月に予定されていたキャンペーン企画が延期もしくは中止になった影響により、タイアップ型広告とバナー広告の販売において一時的な機会損失として15百万円

が発生しました。また、音楽産業からの広告出稿も、第3四半期連結累計期間を通して、前年同期と比べて減少しました。

一方、顧客満足度(CS)ランキング連動型広告については、堅調に推移しており、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期と比べて14.2%増加しました。Google/Yahoo!の検索結果において、「自動車保険」等、多くのワードで上位表示をすでに獲得しており、検索結果から流入してくる目的意識の高いユーザーを効率良くクライアント企業のサイトに誘導していることが、安定的に収益を伸ばしている要因の一つです。また、前述のとおり、収益の機会を拡充してユーザー一人当たりの課金額(広告売上)を増やすべく、すでに検索結果で上位表示を獲得しているジャンルを中心に、現状のクイック課金以外に「一括見積り」または「一括資料請求」などの機能を追加し、ハイブリッド型にするためのシステム開発に着手しました。

以上の結果、WEB事業全体の当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比24百万円減(3.2%減)の749百万円、セグメント利益は前年同期比7百万円減(3.0%減)の252百万円となりました。

②モバイル事業

着うたフルについては、第1四半期及び第2四半期では、入会者が退会者を上回り、売上高は前年同期と比べ、それぞれ微増でしたが、第3四半期においては、市場全体の縮小による影響が大きくなり、退会者数が入会者数を上回る状況となりました。その結果、当第3四半期連結累計期間の着うたフルの売上高は、前年同期と比べて33百万円減(1.7%減)となりました。着信メロディと着うた^{*}についても、市場全体の縮小に伴って、退会者数が入会者数を上回って推移し、それぞれの売上高は、前年同期と比べ、着信メロディが71百万円減(20.8%減)、着うたが97百万円減(25.6%減)となりました。一方、Android携帯電話向け音楽配信は、着実に売上が伸びており、平成23年12月度の売上高は、フィーチャーフォン向け着うたフルの売上高の8%になりました。また、スマートフォン関連のサービスとして、「オリコンアプリランキング」については、売上高は10百万円に留まり、費用が先行する状況で推移しました。

以上の結果、モバイル事業全体の当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比210百万円減(7.6%減)の2,542百万円、セグメント利益は前年同期比130百万円減(13.2%減)の852百万円となりました。

③雑誌事業

現在、一般向け週刊エンタテインメント誌「オリ★スタ」、オーディション情報誌「月刊デ・ビュー」、エンタテインメント業界向けビジネスマガジン「ORIGINAL CONFIDENCE」の3誌を発行していますが、雑誌広告市況が低迷している影響を受け、広告出稿が前年同期と比べて減少し、当第3四半期連結累計期間の雑誌事業全体の売上高は前年同期比29百万円減(2.7%減)の1,057百万円、セグメント利益は前年同期比78百万円減(25.2%減)の232百万円となりました。

一般向け週刊エンタテインメント誌「オリ★スタ」については、誌面の充実を継続的に図っていること、7月の大幅リニューアルによって一冊当たり平均100円値上げしたこと、「オリ★スタ」アプリからの購入も加わってネット通販全体の売上が伸びたこと等を主な要因として、当雑誌の購読売上は前年同期と比べ、7.4%増加しました。

④データサービス事業

データサービス事業は、①音楽データベース提供サービス(放送局向け及びEコマースサイト向け)とランキング情報などの販売(マスコミ向け)、②音楽ソフト・映像ソフト・書籍のマーケティングデータを提供するオンラインサービス「ORICON BiZ online」で構成されています。

当第3四半期連結累計期間においては、前年同期に不振だった放送局へのランキング情報などの販売が回復しました。また、「ORICON BiZ online」についても、メニュー追加等による契約単価のアップを図ったことが奏功し、その売上高は前年同期と比べて5.2%増加しました。

以上の結果、データサービス事業全体の当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比39百万円増(8.4%増)の516百万円、セグメント利益は前年同期比26百万円増(19.7%増)の159百万円となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績については、売上高は前年同期比227,187千円減(4.5%減)の4,869,459千円、営業利益は前年同期比155,916千円減(17.5%減)の733,248千円、経常利益は前年同期比157,929千円減(19.0%減)の671,578千円となりました。営業利益の減少額より経常利益の減少額が大きくなりましたが、これは主として、前年同期に計上した持分法による投資利益や保険戻戻金が当第3四半期連結累計期間では計上されず営業外収益が減少したことによるものであります。四半期純利益については、前年同期比200,518千円減(35.9%減)の357,935千円を計上しました。経常利益の減少率より四半期純利益の減少率が大きくなった主な要因は、当第3四半期連結累計期間において投資有価証券売却損26,070千円、災害による損失10,782千円等を特別損失として計上したこと、税金費用が法定実効税率並みになったこと等であります。前年同期には税効果会計の適用によって、税務上発生した繰越欠損金が税金費用を抑えていましたが、前連結会計年度末において課税所得と相殺可能な繰越欠損金がなくなったため、当第3四半期連結累計期間においては、税金費用が法定実効税率並みになりました。

※Androidは、Google Inc.の商標または登録商標です。

※着うた、着うたフルは、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は4,805,190千円となり、前連結会計年度末と比べ、255,265千円減少しました。現金及び預金は528,096千円増加しましたが、売掛金、有形固定資産、のれん、投資有価証券等は減少しました。負債合計は2,654,919千円となり、前連結会計年度末と比べ、236,058千円減少しましたが、未払法人税等が196,174千円減少したことが、主な変動要因であります。純資産合計は2,150,270千円となり、前連結会計年度末と比べ19,207千円減少しましたが、これは四半期純利益357,935千円を計上したものの、配当金126,360千円の支払、自己株式275,869千円の取得があったためであります。自己資本比率については37.5%となり、前連結会計年度末と比べ、1.0ポイント上昇しました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

第4四半期において、Android携帯電話向けの音楽配信サービスの売上が伸びてくる見通しです。さらに、平成24年2月より、顧客満足度(CS)ランキング運動型広告への「一括見積り」または「一括資料請求」の機能追加を開始しました。第一弾として、平成24年2月2日より、「大学受験塾・予備校」のジャンルに「一括資料請求」の機能を追加しており、今後、すでに検索結果で上位表示を獲得しているジャンルを中心に、順次、機能追加を行っていく予定です。

従って、現時点において、通期の連結業績予想につきましては、当初計画から大きく乖離するものではないため、平成23年5月9日に公表した予想数値に変更はありません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	760,991	1,289,087
受取手形及び売掛金	1,352,224	1,297,451
商品及び製品	8,637	8,252
仕掛品	18,678	9,862
その他	682,174	295,798
貸倒引当金	△20,184	△20,781
流動資産合計	2,802,520	2,879,670
固定資産		
有形固定資産	315,891	155,883
無形固定資産		
のれん	643,836	608,788
ソフトウェア	359,298	377,986
その他	3,209	3,209
無形固定資産合計	1,006,343	989,984
投資その他の資産		
投資有価証券	343,192	278,943
その他	606,310	516,994
貸倒引当金	△19,832	△22,103
投資その他の資産合計	929,670	773,834
固定資産合計	2,251,905	1,919,702
繰延資産	6,029	5,817
資産合計	5,060,456	4,805,190
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	312,416	390,727
短期借入金	100,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	460,936	537,272
1年内償還予定の社債	96,000	116,000
未払法人税等	230,105	33,931
返品調整引当金	14,185	30,425
その他	579,853	537,609
流動負債合計	1,793,496	1,695,965
固定負債		
社債	274,000	276,000
長期借入金	823,482	682,954
固定負債合計	1,097,482	958,954
負債合計	2,890,978	2,654,919

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,090,916	1,090,916
資本剰余金	12,799	12,799
利益剰余金	761,469	993,045
自己株式	—	△275,869
株主資本合計	1,865,185	1,820,891
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△17,234	△16,630
その他の包括利益累計額合計	△17,234	△16,630
新株予約権	△5,267	△4,086
少数株主持分	326,793	350,095
純資産合計	2,169,477	2,150,270
負債純資産合計	5,060,456	4,805,190

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	5,096,646	4,869,459
売上原価	2,944,356	2,856,178
売上総利益	2,152,289	2,013,280
返品調整引当金戻入額	11,155	14,185
返品調整引当金繰入額	28,809	30,425
差引売上総利益	2,134,635	1,997,040
販売費及び一般管理費	1,245,470	1,263,791
営業利益	889,165	733,248
営業外収益		
受取利息	2,831	2,431
受取家賃	7,110	6,727
保険返戻金	5,645	—
その他	4,054	1,976
営業外収益合計	19,642	11,135
営業外費用		
支払利息	41,514	31,297
支払手数料	11,619	9,866
株式関連費	—	15,986
その他	26,166	15,655
営業外費用合計	79,299	72,806
経常利益	829,507	671,578
特別利益		
固定資産売却益	—	105
投資有価証券売却益	—	7,119
貸倒引当金戻入額	371	—
新株予約権戻入益	—	3,096
特別利益合計	371	10,321
特別損失		
固定資産除却損	842	288
投資有価証券売却損	—	26,070
投資有価証券評価損	20,520	545
貸倒損失	6,000	—
支払手数料	1,529	—
災害による損失	—	10,782
その他	—	6,038
特別損失合計	28,892	43,725
税金等調整前四半期純利益	800,987	638,173
法人税、住民税及び事業税	247,797	73,080
法人税等調整額	△26,530	183,855
法人税等合計	221,266	256,935

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	579,720	381,238
少数株主利益	21,266	23,302
四半期純利益	558,454	357,935

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	579,720	381,238
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△3,768	603
その他の包括利益合計	△3,768	603
四半期包括利益	575,952	381,841
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	554,686	358,539
少数株主に係る四半期包括利益	21,266	23,302

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	WEB	モバイル	雑誌	データ サービス	計		
売上高							
外部顧客への売上高	773,935	2,753,126	1,086,863	476,838	5,090,763	5,882	5,096,646
セグメント間の内部 売上高又は振替高	51,759	8,019	12,988	2,588	75,355	—	75,355
計	825,694	2,761,145	1,099,852	479,426	5,166,118	5,882	5,172,001
セグメント利益	260,354	982,387	311,380	133,386	1,687,510	4,716	1,692,226

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外部顧客へのブランド使用料等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,687,510
「その他」の区分の利益	4,716
セグメント間取引消去	6,607
のれんの償却額	△35,047
全社費用(注)	△774,620
四半期連結損益計算書の営業利益	889,165

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	WEB	モバイル	雑誌	データ サービス	計		
売上高							
外部顧客への売上高	749,435	2,542,715	1,057,181	516,688	4,866,020	3,438	4,869,459
セグメント間の内部 売上高又は振替高	41,558	6,933	10,795	2,290	61,578	—	61,578
計	790,993	2,549,649	1,067,977	518,978	4,927,598	3,438	4,931,037
セグメント利益 又は損失(△)	252,478	852,355	232,760	159,609	1,497,203	△14,583	1,482,619

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外部顧客へのブランド使用料等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,497,203
「その他」の区分の利益	△14,583
セグメント間取引消去	1,711
のれんの償却額	△35,047
全社費用(注)	△716,034
四半期連結損益計算書の営業利益	733,248

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成23年5月18日並びに平成23年11月10日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、実施いたしました。平成23年5月19日から平成23年9月30日までに600株(24,689千円)、平成23年11月11日に7,600株(251,180千円)の自己株式を取得いたしました。